

交付運用報告書 2022年10月期（2021年11月1日～2022年10月31日）

i シェアーズ 米国物価連動国債 ETF
iShares TIPS Bond ETF

米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託
米国デラウェア籍法定トラスト

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、i シェアーズ 米国物価連動国債 ETF（以下「ファンド」といいます。）の受益証券は、このたび、2022年10月期の決算を行いました。ファンドの投資目的は、物価連動の米国国債により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

2022年10月末日

1口当たり純資産価格（基準価格）	106.26米ドル
純資産総額	24,981,866,125米ドル
2022年10月期（2021年11月1日～2022年10月31日）	
トータルリターン	-11.62%
1口当たり分配金額	8.022071米ドル

（注）1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、取次証券会社までお問い合わせください。

<その他記載事項>

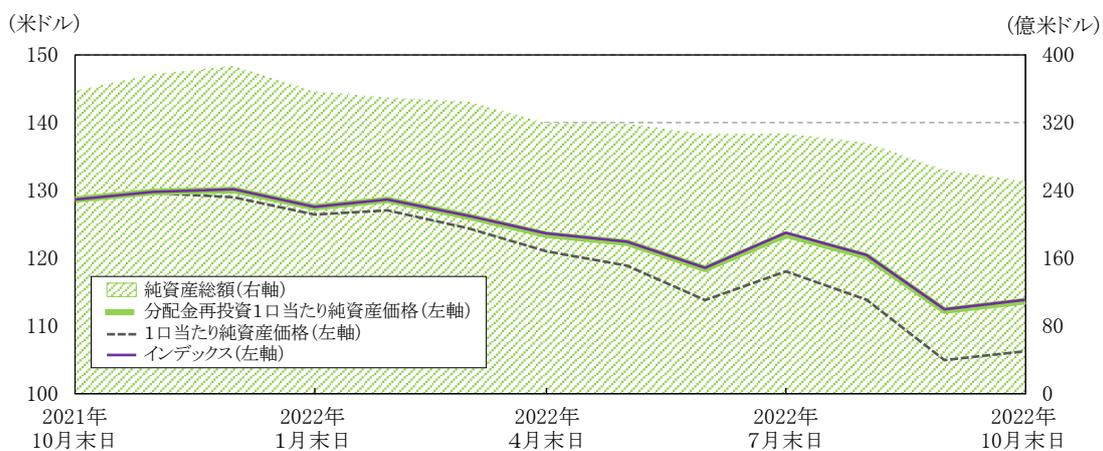
交付運用報告書および運用報告書（全体版）はブラックロック・ジャパン株式会社のウェブサイト（<https://www.blackrock.com/jp/>）の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

トラスト：

i シェアーズ・トラスト

《運用経過》

当期の1口当たり純資産価格等の推移について



2021年10月末日現在の1口当たり純資産価格：128.61米ドル

2022年10月末日現在の1口当たり純資産価格：106.26米ドル

(1口当たり分配金額：8.022071米ドル)

トータルリターン：-11.62%

- (注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。
- (注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。
- (注3) ファンドのインデックスは、ブルームバーグ米国TIPS インデックス (シリーズL) (以下「インデックス」といいます。)です。
- (注4) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2021年10月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。
- (注5) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、各投資者の購入状況などにより課税条件が異なるため、分配金に対する税金を考慮していません。そのため、最終的な税引後の結果を示すものではありません。

1 口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて

米国債券市場概観

2022年10月31日に終了した年度（以下「当年度」）において、米国債券市場は大幅に下落しました。米国債券パフォーマンスの広範な指標であるブルームバーグ米国総合債券指数は、マイナス15.68%のリターンとなりました。

米国連邦準備制度（以下、「Fed」）による金融引き締め政策への移行が、市場低迷の主な要因となりました。10年超にわたって3.0%を下回っていた消費者物価上昇率（年率）は、2021年を通じて上昇に転じ、暦年第4四半期には最終的に6.0%を上回りました。2022年初頭におけるロシアのウクライナ侵攻後にインフレの状況はさらに厳しさを増し、これに伴う制裁措置も加わって、グローバルサプライチェーンはさらに混乱し、エネルギー価格が高騰する一因となりました。インフレ率は、2022年3月に8.0%を超え、当年度終わりまでその水準を上回って推移し、6月には9.1%のピークを記録しました。

Fedは価格圧力を沈静化させるために積極的に動き、景気刺激策であった量的緩和プログラムを打ち切り、2022年3月から9月にかけて実施された5回の金利引き上げにより、金利は0.0%から0.25%の幅から3.0%から3.25%の幅に上昇しました。このような短期間における動きとしては、1980年以来最大のものとなりました。さらにFedは、インフレ率が長期目標の2%に近づく兆候を示すまで、利上げを継続する模様です。当年度後半には、Fedの利上げにより特定のセグメントにおける経済活動が縮小し始めているという証拠がいくつか現れたものの、それでも消費者物価のインフレが意味のある形で低下し始めたという兆候はまだ見られませんでした。このため、10月末の市場価格は、4.5%から5.0%の幅に達するまで中央銀行は引き締め政策を継続することを示しています。

こうした状況は、債券市場のパフォーマンスを大きく圧迫しました。2年物米国中期国債の利回りは、期首時点の0.50%から2022年10月末までに4.48%に上昇し、10年物債券の利回りは1.55%から4.05%に上昇しました。その結果イールドカーブが大きく反転し、短期利回りが長期債券の利回りよりも高くなりました。9月下旬に、イールドカーブは1982年以来最大の反転となりました。

米国国債の利回りの急上昇は、投資家のリスク回避姿勢の強まりと相まって、債券市場のすべてのセクターの低迷を助長しました。住宅市場に関する懸念や、Fedの量的緩和政策打ち切り決定による需要低下の影響を受け、モーゲージ証券はマイナスのリターンを記録しました。それでも、このカテゴリーは、全体のインデックスを上回っていました。

投資適格債は、市場のパフォーマンスが最も悪化したセグメントの一つでした。この資産クラスは、国債利回りの上昇による悪影響に加え、イールドスプレッドの大幅な拡大による圧力も受けました。後者は、経済成長の鈍化が企業収益の減速につながる懸念を反映しています。注目すべきことに、ICE BofA 米国社債指数に示される社債利回りは、2009年以来の高水準で終わりました。

ハイイールド債にも大きな損失が生じました。投資適格債と同様に、利回りの上昇傾向とイールドスプレッドの拡大がパフォーマンスを大きく押し下げました。しかし、このカテゴリーは、金利感応度が低く、エネルギー・セクターの加重が高いことから、投資適格債市場のパフォーマンスを上回りました。このカテゴリーにおける格付けの高い発行体は成長鈍化の影響を最も受けにくいと見られ、格付けの低い発行体のパフォーマンスを総じて上回りました。

1. 運用の経過

iシェアーズ 米国物価連動国債 ETF

2022年10月31日現在のファンド概要

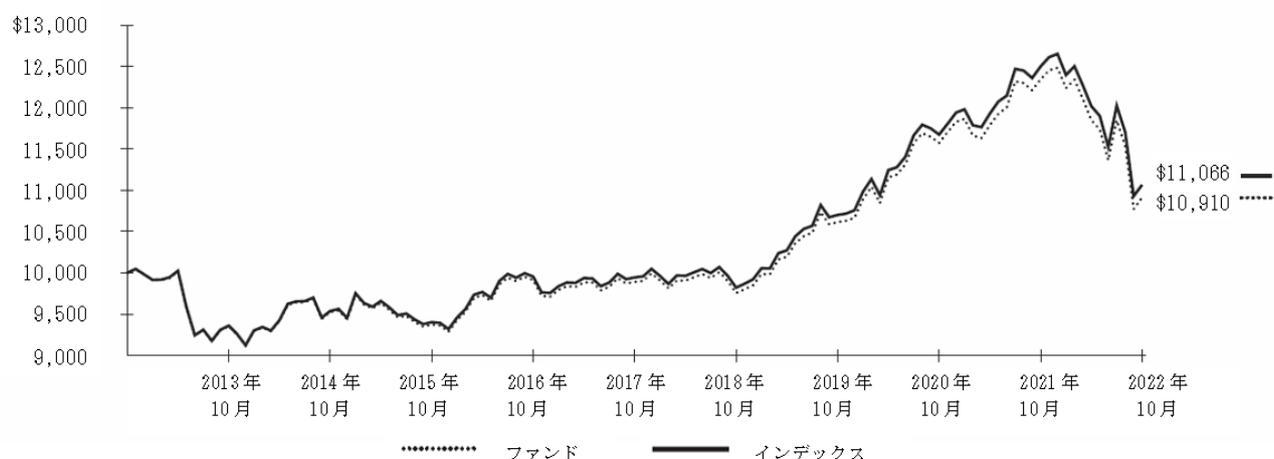
投資目的

iシェアーズ 米国物価連動国債 ETF (以下「ファンド」) は、ブルームバーグ・米国TIPSインデックス (シリーズL) (以下「インデックス」) に代表される、米国財務省の物価連動国債からなるインデックスの投資成果に追随することを目指しています。ファンドは、全体としてインデックスと同様の投資特性を有する、インデックスに含まれる代表的な構成銘柄を組入れています。代表的な構成銘柄の組入れにより、ファンドはインデックスに含まれる銘柄のすべてを保有する場合もあれば、しない場合もあります。

パフォーマンス

	年間平均トータルリターン			累積トータルリターン		
	1年	5年	10年	1年	5年	10年
ファンドのNAV	(11.62) %	1.98%	0.87%	(11.62) %	10.30%	9.10%
ファンドの市場	(11.56) %	1.99%	0.90%	(11.56) %	10.38%	9.34%
インデックス	(11.47) %	2.16%	1.02%	(11.47) %	11.28%	10.66%

10,000米ドル投資の純資産価額の推移



過去のパフォーマンスは、将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。運用パフォーマンスの結果は、ファンドの分配時あるいはファンド受益証券の償還時または売却時に受益証券保有者が支払う可能性のある税金の控除を反映していません。

費用例

実績値			5%の仮説リターンに基づく仮定値			
口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用 支払額 ^(a)	費用比率 (年率)
2022年5月1日 1,000.00米ドル	2022年10月31日 920.70米ドル	0.92米ドル	2022年5月1日 1,000.00米ドル	2022年10月31日 1,024.20米ドル	0.97米ドル	0.19%

^(a) 費用は、当期間中の口座の平均価額に、年率換算された費用比率および184/365（表示されている半年の期間を反映）を乗じたものに相当します。売買委託手数料および金融仲介業者へのその他の手数料など、上記の表や例には反映されないその他の手数料が支払われる場合があります。

ポートフォリオ管理の説明

米国物価連動国債（以下「TIPS」）を含むすべての主要セグメントの債券市場は、タカ派の金融政策と米国国債利回りの上昇がパフォーマンスを圧迫したため、12ヵ月間で大幅なマイナスのリターンを記録しました。

米国のインフレ率は、当年度期首より米国連邦準備制度（以下、「Fed」）の目標値である2%を既に大きく上回っていました。ロシアの2月下旬におけるウクライナ侵攻を受けてインフレ率が急上昇し、サプライチェーンへの圧力がさらに強まり、コモディティ価格の急上昇につながりました。消費者物価上昇率は、2022年の最初の10ヵ月間に前年比で少なくとも7.5%上昇し、6月には9.1%のピークを記録しました。これを受けて、Fedはベンチマークとなる翌日物貸出金利を積極的に引き上げ、フェデラル・ファンド金利誘導目標を2022年期首における0%から0.25%の幅から3.75%から4.0%の幅へと引き上げました。さらに、市場は、今後数ヵ月の間にFedがさらなる大幅利上げを行うものと予想しています。

米国国債のイールドカーブはFedの引き締め政策を受けて劇的に上昇し、2年物債券の利回りは12ヵ月間で0.50%から4.48%へと398ベースポイントの上昇となりました。フェデラル・ファンド金利変動の直接的影響をあまり受けない長期米国国債の利回りは、指標となる10年物債券の利回りの1.55%から4.05%への上昇（250ベース・ポイント）に見られるように、より緩やかな上昇となりました。その結果、短期米国国債の利回りは期末時点で長期利回りよりも高くなっており、景気後退の危機に瀕しているのではないかとといった懸念が高まりました。

TIPSのパフォーマンスは、金利の方向性とインフレ予想の変化の両方による影響を受けます。現在から5年先までの期待インフレ率（年率）を計測したTIPSの5年間の「ブレイク・イーブン」インフレ率は、当年度中に僅かに下落し、期末には2.67%になりました（出典：セントルイス連邦準備銀行）。米国国債の利回りの上昇は、金利感応度の高い長期TIPSを中心に、TIPSのパフォーマンスを絶対的に圧迫しました。

ポートフォリオ情報

満期別内訳

満期	総投資比率 ^(a)
1-5年	51.8%
5-10年	34.6
15-20年	2.8
20-25年	7.1
25-30年	3.7

組入上位5銘柄

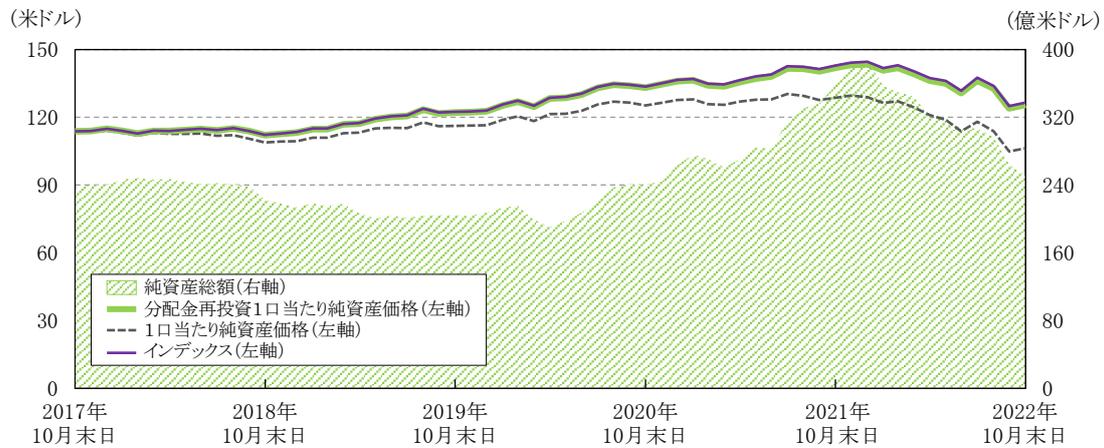
証券	総投資比率 ^(a)
U.S. Treasury Inflation-Indexed Bonds, 0.63%, 01/15/26	5.9%
U.S. Treasury Inflation-Indexed Bonds, 0.50%, 04/15/24	5.3
U.S. Treasury Inflation-Indexed Bonds, 0.13%, 04/15/25	5.0
U.S. Treasury Inflation-Indexed Bonds, 0.13%, 01/15/30	4.2
U.S. Treasury Inflation-Indexed Bonds, 0.13%, 01/15/31	3.8

^(a) マネー・マーケット・ファンドを除く。

費用の明細

項目	項目の概要		
投資顧問報酬	投資顧問報酬	平均日次純資産総額	ファンドに提供する投資顧問サービスの対価
	0.2000%	1,210億米ドルまで	
	0.1900%	1,210億米ドル超、1,810億米ドル以下	
	0.1805%	1,810億米ドル超、2,310億米ドル以下	
	0.1715%	2,310億米ドル超、2,810億米ドル以下	
	0.1630%	2,810億米ドル超	
その他の費用	0%		専門家報酬

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について

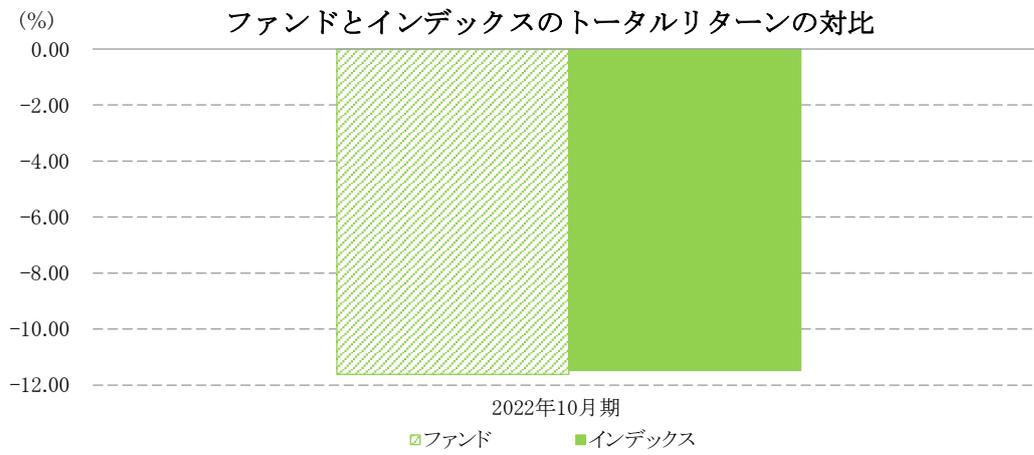


	2017年 10月末日	2018年 10月末日	2019年 10月末日	2020年 10月末日	2021年 10月末日	2022年 10月末日
1口当たり純資産価格 (米ドル)	113.73	108.83	116.11	125.29	128.61	106.26
1口当たり分配金額 (米ドル)	—	3.408737	2.242556	1.250472	4.908521	8.022071
ファンドのトータル リターン (%)	—	-1.36	8.80	9.02	6.67	-11.62
インデックスのトータル リターン (%)	—	-1.24	8.96	9.09	7.07	-11.47
純資産総額 (千米ドル)	23,633,497	22,223,190	20,436,063	23,956,337	35,868,635	24,981,866

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2017年10月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

ベンチマークとの差異について



分配金について

当期（2021年11月1日～2022年10月31日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。
 なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

（金額：米ドル）

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 ^(注2)
2021年11月1日	127.98	0.121765 (0.10%)	0.42
2021年12月1日	129.00	0.185957 (0.14%)	1.21
2021年12月16日	127.73	0.786249 (0.61%)	-0.48
2022年2月1日	125.28	0.438763 (0.35%)	-2.01
2022年3月1日	127.83	0.22904 (0.18%)	2.77
2022年4月1日	123.01	0.798369 (0.64%)	-4.02
2022年5月2日	118.31	0.937913 (0.79%)	-3.76
2022年6月1日	117.05	1.366707 (1.15%)	0.11
2022年7月1日	114.42	0.565151 (0.49%)	-2.07
2022年8月1日	117.06	1.1538 (0.98%)	3.80
2022年9月1日	111.46	1.438357 (1.27%)	-4.16
2022年10月3日	106.22	0 (0.00%)	-5.24

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%) = $100 \times a / b$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 = $b - c$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2021年11月1日の直前の分配落日（2021年10月1日）における1口当たり純資産価格は、127.68米ドルでした。

《今後の運用方針》

引き続き、インデックスのパフォーマンスと密接に連動した投資成果を提供することを目指し、ファンドの運用を行う予定です。

《お知らせ》

該当事項はありません。

《ファンドの概要》

ファンド形態	米ドル建て／オープンエンド契約型外国投資信託 米国デラウェア籍法定トラスト
信託期間	無期限
運用方針	ファンドの投資目的は、物価連動の米国国債により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。
主要投資対象	ファンドは、通常その資産の80パーセント以上をブルームバーグ・米国TIPSインデックス（シリーズL）（Bloomberg U.S. Treasury Inflation Protected Securities（TIPS） Index（Series-L））（以下「インデックス」といいます。）を構成する有価証券に、その資産の90パーセント以上をファンドがインデックスを追跡するために役立つとBlackRock Fund Advisorsが考える米国財務省証券に投資します。
運用方法	ファンドは、一般に「TIPS」として知られる、物価と連動した米国財務省の公的債務の実績を測定するインデックスに連動する運用成果を追求します。 BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの投資目的を達成するために、「パッシブ」またはインデクシング・アプローチを使用します。 BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの運用につき代表サンプリング戦略を使用します。代表サンプリングとは、全体としてインデックスの代表サンプルと類似する投資プロファイルを有する証券の代表サンプルに投資する指数戦略をいいます。
投資制限	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投資を集中させること（すなわち、全資産の25パーセント以上を特定の産業または産業グループの証券に投資すること）。但し、ファンドは、インデックスが特定の産業または産業グループに証券を集中させる程度とほぼ同程度に投資を集中させます。かかる制限の目的上、米国政府（その支分機関および系列機関を含みます。）の証券、米国政府証券の担保付き買戻契約および州または地方自治体もしくはその政府当局の証券は、いかなる産業の構成員から発行されたものとして解釈されません。 2. 借入を行うこと。但し、（i）ファンドは、これを行わなければ時機を失した証券の処分を要することとなる買戻請求に対応することを含む臨時または緊急目的（レバレッジ目的を除きます。）で銀行から借入を行うことができ、（ii）ファンドは、その投資方針と合致している限り、買戻契約、逆買戻契約、先送り取引、およびこれらと類似する他の投資戦略および技術を履行することができます。（i）および（ii）の取引を行う場合に限り、当該取引からファンドは総資産（借入額を含みます。）の33%パーセント以上を取得してはならないという制限が課されます。当該金額を超過する借入は、適用法に基づき縮減されます。 3. 優先的受益証券を発行すること。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 4. 貸付を行うこと。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 5. 不動産、不動産抵当、商品、商品契約を売買すること。但し、かかる制限は、ファンドが先物契約および先物契約のオプションを取引すること（ファンドの投資目的および投資方針と合致している限り、為替オプションを含みます。）を禁止するものではありません。 6. 他の者が発行した証券の引受業務に携わること。但し、ポートフォリオ証券の処分により、ファンドが、厳密には、米国1933年証券法における引受人とみなされる場合を除きます。

分配方針	純投資収益からの分配金（もしあれば）は、最低でも毎年宣言され、ファンドから支払われます。証券の実現純収益（もしあれば）の分配は、通常年に一回宣言され、支払われますが、トラストは、ファンドに関してより頻繁に分配を行うことができません。ファンドの登録投資会社としての地位を維持するため、または、分配されない収益または実現利益に所得税もしくは消費税が賦課されることを回避するために必要または望ましいとファンドがその合理的裁量により決定した場合、臨時分配金を宣言する権利を有します。
------	---

《ファンドデータ》

組入資産の内容（2022年10月期末現在）

組入上位資産

(注) 組入上位銘柄および組入銘柄数は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。組入銘柄の詳細は、運用報告書（全体版）の「IV. 投資有価証券の主な銘柄」を参照ください。

組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分

(注1) ファンドの組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため記載することができません。

(注2) ファンドの組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

純資産等

2022年10月期末	
1口当たり純資産価格	106.26米ドル
純資産総額	24,981,866,125米ドル
発行済口数	235,100,000口

2022年10月期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
92,200,000	136,000,000	235,100,000

本報告書に記載の「1口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて」は、ファンドのアンニュアル・レポートの該当部分の翻訳であり、本報告書と原文（英文）との間に相違がある場合には、原文（英文）の内容に従うこととなります。なお、原文（英文）の記載のうち、ファンドに関係しない部分を省略する場合があります。